

<奨励賞 5団体>

- 特定非営利活動法人 おおさか子ども多文化センター（大阪）／助成額20万円
 多文化にふれる えほんのひろば2019
 ～出会ってわくわく！いろいろなおはなし、世界のいろいろなおともだち～

| | |
|------------|---|
| 団体概要 | <p>当団体は、外国にルーツを持つ子どもの包括的教育支援活動を通じて、「異なる言語や文化を持つ人々が、生き活きと暮していける社会をつくること」を趣旨として2011年2月に設立された。主な活動は、大阪府日本語教育支援センター「ピアにほんご」の運営、日本語講師、通訳、翻訳者、各種研修会講師の紹介・派遣、外国人児童・生徒の教育に関する資料や情報の収集・発信などを行っている。</p> |
| 応募プログラムの概要 | <p>日本にクラス外国人家族、日本の学校に通う外国にルーツを持つ子どもたちに、普段なかなか手にする機会のない母語の絵本を楽しめる場をつくる。同時に、日本の子どもたちも、絵本を通じてさまざまな国の人や、身近な多文化に出会う機会を提供する。具体的には、①日本語と外国語あわせて約25言語、750冊の絵本を展示し、読んでもらう「えほんひろば」、②多言語による読み聞かせプログラムの「多言語おはなし会」、③おはなしの背景にある文化をより深く味わってもらう「おはなしとダンスでベトナムを感じてみよう」、④「世界の文字で自分の名前を書いてみるワークショップ」など、絵本を通じてさまざまな国や言語の人たちの交流の場をつくる。</p> |
| 審査講評 | <p>当事業は、孤立しがちな外国人家族に社会参加の機会を提供し、ともに地域でくらす者同士、絵本を介した交流の場をつくるプログラムである。審査委員会では、「実現性」「組織の継続性・運営体制・活動歴」「市民主体性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成により、当団体の多文化共生の促進活動が発展し、日本人親子と外国人親子が心から理解し合える地域社会が広がることを大いに期待したい。</p> |

■ ぐっすりねんねこ（兵庫）／助成額20万円

眠育キャンプ ねんねこ

| | |
|-------------------|--|
| <p>団体概要</p> | <p>近年、不登校児の数は増大し、14万人を超えたと報告されている。当団体は、睡眠障がい改善に着目した不登校児支援事業を行っている。理想の睡眠リズムを体験学習する宿泊型プログラムや日帰りプログラムを実施している。また、睡眠に対する正しい知識を普及させるために講演会や情報発信を行っている。</p> |
| <p>応募プログラムの概要</p> | <p>8月に3泊4日の眠育キャンプを実施。その後5ヶ月間、ふりかえりと参加者交流会を開催する。キャンプは、睡眠リズムを整えるために、朝の日光、日中の運動、一定の食事時間、夜間の電子機器使用方法をポイントとして活動プログラムを組み立てる。プログラムの内容は、参加者の興味を引き出すために手づくり枕体験や睡眠講義を行ったり、コミュニケーション形成や成功体験の獲得のためにグループワーク、キャンプファイヤーなどを行う。</p> |
| <p>審査講評</p> | <p>当該団体は、設立して1年目。子どもの睡眠障がい・慢性疲労症候群による不登校の問題に着目し、その改善プログラムを手掛けている。審査委員会では、当事業が不登校の問題と睡眠障がいを関連づけてその解決に着手した「新規チャレンジ性」を評価した。</p> <p>本アワードの助成が、当団体のプログラムの充実につながり、不登校児の睡眠障がい問題が、広く社会に理解されることを大いに期待したい。</p> |

■ 特定非営利活動法人 tadaima（京都）／助成額20万円

“未来のイクボス” 育成プロジェクト

| | |
|-------------------|--|
| <p>団体概要</p> | <p>共働き家庭が6割を超えているにも関わらず、男性の家事参加状況はほとんど変わっていない状況を変革し、「10年、20年後も“ただいま！”と帰りたくなる家庭であふれた社会の実現」にむけ、男性の家庭参画・家事シェアを推進するために団体を設立するに至る。</p> <p>主な活動は、家事シェアのプロモーション、子育て家庭の住環境のコンサルティング、男性の育児取得を推進するための企業内研修事業などを行っている。</p> |
| <p>応募プログラムの概要</p> | <p>これからの社会を担うであろう未来の管理職層が、自身の育児体験を部下に伝えていくことができれば、社内で男女関係なく育休を取得するのが当たりまえになるはずである。本事業はそうした未来に向けて、現在育休を取得したいという男性に育休を取得できるようにサポートするプログラムである。</p> <p>具体的には3、40代の男性向けに「未来のイクボス育休取得ワークブック」を制作し、育休を取得するまでの生活・仕事の準備、育休取得中の過ごし方などをイメージしてもらう。また、制作したワークブックをもとにした研修プログラムを開発し、参加者を中心に、SNSを通じた育休男性のコミュニティの構築を行い、育児の成功・失敗体験の共有と父親同士の交流を行う。</p> |
| <p>審査講評</p> | <p>女性活躍推進や働き方改革が進み、男性の育児参加が必須課題となっているが、様々な統計数値からも日本の男性の育児参加が進んでいないという現状がある。当事業は、男性の育児参加の機会を拡大する施策の一つとして、男性の育児休暇取得率の向上をテーマとしている。</p> <p>審査委員会では、当事業が男性の育休取得をゴールとするのではなく、その前段階の環境整備、育休を取得した後の夫婦間の関係性、父親たち同士の交流についての考察や、ターゲットを絞り込んだ地道な活動から社会全体への広がりを志向していることなど、「創意工夫」「新規チャレンジ性」について高く評価を行った。</p> <p>本アワードの助成によって、男性の育児に対する理解と参加、新しいコミュニティ創出等の波及効果を大いに期待したい。</p> |

■ チャイルドラインすいた（大阪）／助成額 20 万円
「子どもの声を聴けるおとな」 育成講座 2019 の開催

| | |
|-------------------|--|
| <p>団体概要</p> | <p>チャイルドラインは、全国 40 都道府県 70 団体で展開されている 18 才までの子どもが自分の意思を持ってかける「子ども専用電話」である。当団体は、学童期以降の子どもたちの支援の必要性を痛切に感じ、吹田市の助成金を得てチャイルドライン設立のための「子どもの声を聴けるおとな」養成講座を実施。2014 年 6 月に「チャイルドラインすいた」を開設した。</p> |
| <p>応募プログラムの概要</p> | <p>チャイルドラインの電話を通して子どもたちから寄せられる声は「いじめ」「虐待」「自殺」などに関する切実なものであり、青少年の自殺は増え続けている。その背景に何があり、大人は何ができるのかについて、専門の講師を招き、「子どもの声を聴けるおとな」養成講座 2019 を開催する。養成講座開催にあたり、全講座受講者 15 人、新たなチャイルドラインスタッフ登録者 10 人を目標とする。地域にこどもの声を聴けるおとなを増やし、また、スタッフが増えることで電話受信日を増やし、より多くの子どもたちの「こころの居場所」を増やすことで、いつでも、だれでも子どもが気軽に話せる環境をつくる。</p> |
| <p>審査講評</p> | <p>当事業は、切実な子どもの声を受けとめる地域社会づくりとチャイルドラインの充実を目的とするプログラムである。審査委員会では、当事業の「社会性」「実現性」「市民主体性」を高く評価した。 本アワードの助成が、子どもとおとなが気軽に話し合える地域づくりに寄与し、子どもの安心安全な社会づくりにつながることを大いに期待したい。</p> |

■ 南大阪子育て支援ネットワーク（大阪）／助成額 20 万円

子育て当事者「コミュニケーション白書」～子育てに正解はない！～

| | |
|-------------------|---|
| <p>団体概要</p> | <p>地域の子育て支援を担う NPO 法人 4 団体と企業が連携して本ネットワークを設立した。</p> <p>それぞれの団体は子育てが保護者等の当事者だけでなく、地域全体で一人ひとりの子どもたちを育てる「共同子育て」をキーワードに、それぞれの団体の強みを生かしてフォーラムの実施や情報誌の発行を行っている。また、「共同子育て」を行政施策として実施していくために、様々な専門家や団体を巻き込んだ「公開円卓会議」の開催を行っている。</p> |
| <p>応募プログラムの概要</p> | <p>異なるセクター連携による、子育て中の世代への「共同子育て」の啓発を目的とした事業である。具体的には、「子育てトークカフェ～SNS 時代の子育て～」をテーマとした事前アンケートの実施、それを元に参加者対話型の「南大阪子育てトークカフェ」を堺市、貝塚市、松原市の 3 エリアで開催、それを受け、子育て世代のコミュニケーションのあり方や意見を反映させた白書を発行し、インターネットなどで公開する。また、子育て当事者の自己肯定感を高め、サービス提供を受けるだけでなく、ともに支える側となるための教育や子育て支援に関する政策提言をまとめ、各行政機関や関連機関への発信を行う。</p> |
| <p>審査講評</p> | <p>当事業は、今、子育て中の世代に「共同子育て」を啓発し、誰もが子育てしながらくらしやすい社会の実現を目的としたプログラムである。</p> <p>審査委員会では、地域の子育て支援という共通のミッションで複数の NPO 法人と企業 CSR 部門がセクターを超えたネットワークで、活動が厚みを増し、継続した取組みを行っている点で、「実現性」「組織の継続性・運営体制・活動歴」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成による当団体の申請事業が、当事者目線での子育てサポートのあり方について、行政などへの有効な政策提言となることを大いに期待したい。</p> |